



裁判員等経験者との意見交換会を行いました

令和6年7月19日、裁判員等経験者4名と法曹三者（裁判官、検察官、弁護士）との意見交換会を行いました。

今回は、「法廷における心証形成が可能となるような、裁判官、検察官、弁護人の活動について」をテーマに、ご意見やご感想を伺いました。



● 争点につき、評議が始まるまでに自分なりの意見を持つことができたか

資料はカラーで分かりやすく、見やすかったし、検察官も弁護人も説明はゆっくりで、各主張の対立点が理解できた。証人尋問を聞いていても、弁護人が聞こうとしていることが理解でき、自分なりの判断ができた。

検察官の主張がA4用紙1枚でまとまっており、それを最初に頭に入れていたので法廷での証言も頭に入りやすかった。

責任能力が争われた事件だったが、裁判官から事前に説明を受けたので、着眼点をもって医者話を聞いて理解できた。

● 自分なりの意見を持つために有益であった手続等

確実に間違いのない事実を最初に言ってもらえると、それをベースに被害者の証言の信用性等を考えることができるので、すごく助かる。

裁判官からパワーポイント資料を用いて、法的な「責任能力」の考え方について説明があり、正確に理解ができた。

たくさんのメッセージが証拠として提出されたが、一番争われている部分をカラー印刷してもらえると分かりやすかった。

● 法廷での心証形成を容易にするために考えられる工夫

争点が多いとメモがぐちゃぐちゃになってしまうので、争点ごとに書く欄のあるメモがあればわかりやすい。メモがあると心証を残しやすい。

証人について、こういう人が出てきてこの話をして次にこういう人が出てくる、というような立証の全体構造がわかっていればよかった。

●裁判員裁判を振り返って

実際にやってみないとわからないことがたくさんあると感じた。ニュースではわからない空気感や温度感がある。メンタル的な配慮もされていた。

裁判は事務的で冷たいという印象を持っていたが、法曹三者が権利と法律を守ってやっていることを身近に感じることができた。

裁判員の中で最年少だったが、幅広い年齢層の人の意見を聞けて、裁判員をやる前より自分の意見を広く持てたと思うし、意見が言いやすい環境だった。十代でも問題なくやれると思った。

●裁判員裁判を広めていくために

裁判員裁判は面倒臭いものではなく、人生経験としてやっておいてよかったと思えるものだよ、ということを伝えたい。

面倒臭くて断るのはもったいない。自分の国の制度を知る大きなチャンスだし、気付きのチャンスだと思う。

学業で忙しい人もいるが、それを休んでも行く価値はあったと思う。社会科見学等で裁判傍聴の機会があればいいと思った。

会社に裁判員休暇制度がなかったり、大学が授業や試験について調整をしてくれないと、対応が難しいと思う。

ネットの活用が必要だと思う。メディア・報道機関の協力を得た企画や、学校と組んで企画等を行うことが必要だと思う。



司会：江口裁判官

裁判員の皆様と裁判官が、より良い評議を実現するためには、裁判員の皆様に法廷で自分なりの意見を持って頂くことが重要だと考えています。

今回の意見交換会では、そこにテーマを絞ってご意見をうかがわせていただきましたが、裁判官、検察官、弁護人がそれぞれどのような活動をすればよいのかにつき、多くの気付きを得ることができました。

これからも、皆様のご意見を生かし、よりわかりやすく、より参加しやすい裁判員裁判の実現に向けて、裁判官、検察官、弁護人で協力しながら、努力していきたいと思っています。

ありがとうございました！